

# 1 自己評価及び外部評価票

## 【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090100500		
法人名	高田産業 有限会社		
事業所名	グループホーム太陽 まゆみだの家		
所在地	長野市檀田2丁目23-10		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2090100500-00&amp;ServiceCd=320&amp;Typ">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2090100500-00&amp;ServiceCd=320&amp;Typ</a>
----------	---

## 【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	令和3年7月12日

## 【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

「家庭的で尊厳ある生活環境の中で、心身の力を活かし、安らぎと喜びのある場として利用者と家族の幸せを追求する」この運営理念を職員皆で共有、実践することで、ご利用者様、ご家族様と信頼関係を構築し、ご利用者様が笑顔で安心できる住まいを築いております。また、ご家族様が笑顔でひと時を過ごすことができる「幸せの集まる場所」を追求していきます。

## 【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

グループホームまゆみだの家は、利用者の今までの生活スタイルに合わせ、特に日常的な外出支援が特色である。しかし、コロナ禍で地域の集いや行事も中止となり、揃っての外出や外食、買い物も制限され、不本意な生活を強いられているなか、少人数で出かけられる場所を探したり、系列施設の土日の休業日を利用したり、デリバリーを利用したりと、工夫や形を変えての継続に繋げている。「コロナ禍でできない」から、「コロナ禍でもできること」への前向きな思考で、ホームの真価を発揮している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(すみれ) ※1ユニットの場合は2ページめは必要ありません。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。**

ユニット名(あじさい)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月、各ユニット会議の初めに全員で理念の唱和を行い、共有を図っている。一人ひとりが理念を暗記し行動の指針としています。また、勉強会では理念によるベクトル合わせ、事業所、スタッフの共通目的・課題を検討しあい、皆で目指す道しるべとしています。	経営層、管理者、リーダー層の徹底した法人理念の周知、啓発が進んでおり、それを介護の現場で活かすように日々の取り組みのなかで努めているので、利用者のその人らしい暮らしを垣間見ることは容易である。また、利用者から認知症介護について学ばせていただいているという意識が高いのも、関係者の理念の理解度、ベクトルが一致している証と思われる。	常に理念に立ち帰る、この実践が続くことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年であれば、お茶のみサロン、オレンジカフェ等、地域行事で地域の皆様とのつながりを楽しみにしておりますが、コロナ禍により控えております。	この1年はコロナ禍のため、また、利用者、職員のワクチン接種が遅れていたため、地域とのつながりを担う活動は狭まっている。しかし、可能な限りの代替案を実施するなど、ネガティブ思考からポジティブ思考へと、専門性を発揮する取り組みが始まっている。	今後も、積極的な代替案の検討、実施を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍により、地域の方々と交流を持つ機会が少なくなっておりますが、運営推進会議等により認知症や、グループホームに対する理解につながる発信をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により、皆様で集まる機会は減っていますが、日々の活動報告や意見交換等、書面にて連絡を取っています。	この1年はコロナ禍のため、集合しての会議が困難となり、詳しいホームの様子などは文書を通してのものとなっている。そこには、昨年度との活動内容の変化なども載せ、現状把握を容易とし、意見、提案を受け入れる姿勢がみられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	新型コロナウイルス対応等のため、市町村、保健所等、関係機関への連絡、相談等が増え、また、介護保険法改正等、長野市の担当者様とは情報交換や相談、検討等、協力体制を築いています。	この1年はコロナ禍のため、以前にも増して市担当課とのつながりが深まり、連携は順調である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ご利用者様の尊厳や施錠を含めた身体拘束についての勉強会を定期的実施し、身体拘束マニュアルに基づき共有しています。実際のホームで起こりうる事例を検討し、身体拘束に対する意識が薄まらない様に努めています。	定期的な身体拘束適正化委員会の活動があり、内部研修では動画を活用し、視覚的に意識付けを図るなどの取り組みもある。また、研修後は一人ひとりの感想も記録し、利用者に対するの自覚の深まりを狙っているものと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待や拘束に関する新聞、報道等、時事関連の情報を共有し、会議等で話し合いの場を設けて確認をしています。また、虐待や拘束に繋がる前に「なりうる可能性」についても検討し、防止対策に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、リーダーは研修、勉強会のなかで学ぶ機会を持ち、制度の必要性を理解しています。また、地域包括支援センターとは必要に応じて、情報交換、事例相談等を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	グループホームでの生活について、利用料金やいつまで入居できるのか等、ご家族の不安や疑問について丁寧にご説明し、ご理解いただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、要望を気軽に伝える事ができるように意見箱を設置しています。現在は、コロナ禍により、なかなか面会が難しい状況なので、電話にてご本人の様子をお伝えしながら、ご家族の意見や思い等をお聞きする機会を大切にしています。	定期発行のホーム便りを活用して、コロナ禍での日常の過ごし方について報告したり、意見を求める取り組みを行っている。そこでは、前年度のデイリープログラムとの活動数の変化や、市内の感染者の状況に応じて、随時、面会の可否なども載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議や個別面談も定期的に行いながら、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。ケアについては職員がご利用者様の要望を上手く聴き役になり吸い上げ、ケアの向上につなげています。	一人ひとりの利用者の状況の変化、ヒヤリハットの件数や内容について、月1回の見当で対応などを話しあっている。また、食材の買い出しの困難さがあるための食材宅配業者の利用や、日々の業務日誌の詳細な利用者の様子については業務負担もあり、アプリ使用の検討も始まっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に全職員と面談し、職場環境、条件等の整備についてや、各自の目標設定、意欲向上につなげております。管理者、リーダーは勉強会、面談等で目指すリーダー像やチーム作りなど、ビジョンを共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナウイルスの影響により外部研修の受講が難しい状況でしたが、毎月の会議や日々の業務の中でスタッフが話し合う機会はたくさんありました。介護スキル等管理者、リーダーと一緒にスキルアップを目指す取り組みができました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍により交流する機会や勉強会は減少しましたが、リモート、オンラインでコロナ感染防止策や、ご家族交流等、必要な情報を共有する場は増えました。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントした情報をもとに何事も、ご本人の意思を聞き、分からない場合はご家族等へ相談し、安心して過ごしていただける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み、面談等、ご家族の様々な思いや困り事を理解し、ホームでの事例やできること等を伝え、ご家族とともに考え、受け止め、改善等出来るように前向きな話し合い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の意向やご本人様の生活歴から支援方法を見極め、早めに職員と情報共有してケアに移行できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意見や尊厳を大切に、できることはできるだけ行ってもらい教えていただきながら、感謝の想いを伝え、ご利用者様のやりがいに繋げ職員との関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との面会時に本人の状況などを話しています。また、わからないことや、病気の時など、電話やメール等でご家族に相談し、意見も聞きながらご家族とともにご本人を支えていく関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍により馴染みの人と会ったり、出かけたりすることが難しい状況ですが、電話でお話する機会をつくり、これまでのご縁やつながりが途切れないよう努めています。	この1年はコロナ禍のため、面会の可否や外出制限があり、なかなか思うように関係継続ができない状況であったが、デリバリーや出張販売などを取り入れるなどの代替え案で対応している。 なお、日常的な少人数でのご近所の散歩は継続して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士が家事、手伝いを一緒に行かない、お互いが支え合える場となるよう努めています。 また、身体状況が重くなっているご利用者様もスタッフが架け橋となり、孤立しないよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設、病院等に移られた際は、ご利用者、ご家族と面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お手伝いをされる方、塗り絵や大人の学校、手芸や読書をされる方など、様々なご利用者様の過ごし方があり、その方の暮らし方を大切にしています。	日常の穏やかな活動は利用者にとっては落ち着けるものとなっており、大人の学校の親しみやすい、楽しい教材を利用して一日を過ごす方もいる。 家庭的な職員対応ということでは、出退勤の際には利用者への挨拶で本人のサインをも見逃さないようにして後の者に繋げたりと、立ち止まって見る、考えるというシステムが機能していると思われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居される際にご本人様やご家族、居宅ケアマネ等から情報を集め、アセスメントシートを作成し、職員間で共有して今までの暮らし方や思いの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送り事項にその日の健康状態、毎月の会議からご利用者様の現状把握に努めています。 また、記録だけでなく、職員出勤時に必ず挨拶を交わし、ご利用者様の顔色や気持ちの把握を行ってからケアに移るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族の想いをもとにケアプランを作成し、会議などで職員皆でモニタリングを行っています。 また、主治医の意見や終末期等についての相談、話し合いなども反映させた情報共有、意見交換等によりケアプランの充実につなげています。	日々の総合チェック表は、主食、副食、汁物の摂取量、バイタル、口腔ケア、嚥下体操、便尿など、一目で把握できる仕組みで、職員も理解しやすく、モニタリング会議での活用も容易となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録や業務日誌にその日1日の様子やスタッフの気づき、健康状態を記録し共有を図っています。 継続的な問題なのか、一過性のものなのかも状況に合わせて判断し、ケアプランに随時反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族の状況を理解し、それぞれのニーズに対応していける事業所づくりに取り組んでいます。今後ご利用者、ご家族の想いをくんだ支援、サービス提供、事業所づくりに努めます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	例年、お神輿やお茶のみサロン、地域ボランティア交流等を実施しているが、コロナ禍で交流が難しいなか、地域と様々な情報交換等を行い、安心安全に過ごす事が出来たと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者、ご家族の承諾のもと、かかりつけ医との24時間対応、往診協力体制を築き、適切な医療を受けることのできる体制です。受診内容も専用のノートや申し送りに記載することで職員間での情報共有も実施しています。	今までのかかりつけ医での継続、同意を得ての協力医療機関等、本人、家族の希望を基にした受診、また、家族の要望での受診の付き添いも実施し、その受診結果を全職員が共有する仕組みで統一した医療支援となっている。また、職員は毎日の体操の時間に利用者の表情や体調を観察し、変化を見逃さないように心がけており、医療機関との連携の構築もあるので、本人、家族の医療面での信頼は大変高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間365日の体制で相談できる環境と、訪問看護時には現場の職員と相談し合う機会があり、ご利用者様の体調変化や不安についても相談できる環境があります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各ご利用者様のかかりつけ医との信頼関係を築き、入院時の説明や退院前の本人の状況や今後の対応等についてケアカンファレンスを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期にはご本人、ご家族との話し合いの場を設け、事業所、医師と今後の方向性やご本人、ご家族の意向を確認しています。 また、職員はケア会議等で終末期ケアについて情報共有、ケア方法等についてチームで統一したケアを実施できるよう努めています。	重度化やターミナルケアに向けては本人、家族の意向を第一とし、医療機関と連携のもとに本人にとって幸せな終末期となるように適切なケアに努めている。 そのために、ケア会議で支援方法等について話し合いを重ね、今できる最大のケアになるよう取り組んでいる。 また、実施後は、職員に対してのメンタルフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、対応方法、連絡方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜含め、様々な場面を想定しながら避難訓練を実施しています。 また、地震、台風、水害等、昨今様々な災害が起こりうること、その時の対応等、全職員で対応方法等を含め、情報共有に努めています。	定期的に火災を想定しての避難訓練を実施し、夜間訓練(19時)では夜勤者2名で避難誘導を行い、問題点を明らかにして、逃げ遅れがないかの確認シールや利用者のネームプレートなど、利用者の命を守る独自の工夫も確認できる。 また、訓練は運営推進会議委員にも見学してもらい、助言や意見を聞いているので、地域住民の協力の必要性からも、その見学者等の広がりも間もなくと思われる。	近年の異常な自然災害(地震、台風、水害、防風等)について、地域に応じた各マニュアル等の整備、また、訓練においても複数の場面を想定した誘導方法や、日中、夜間についての行動マニュアル等、期待したいところである。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用様のプライベートな空間を大切にし、居室への訪室時にはノック、声をかけてプライバシーの保護に努めています。 声かけもご利用様1人ひとりの性格を尊重し、親しき仲にも礼儀をわきまえた言動であるように努めています。	会議や研修で利用者の尊重、言葉の拘束、自己決定等について学び、話し合いを重ね、知識や技術の向上を図っていることは、利用者の尊厳ある姿を大切に、丁寧な言葉遣い、誘導時の声のトーンなど、職員一人ひとりが意識している姿が確認できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中でご利用様の思いや希望を聴き、新型コロナウイルスの状況下でも外出希望などはドライブやお花を見に出かけたりなど、ご利用様の希望に沿えるように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の気持ちが最優先であり、楽しく身体を動かす時間や休む時間、一人で過ごす時間と利用者様のペースに合わせてメリハリを持って支援できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性の利用者様で美容院に出かけパーマをかけに出かけられる方もおられます。また、外出や行事の際にはお化粧をしたり、衣類もスタッフと一緒に考えながら選び、ご利用者様の好みにそって支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員とご利用者様が献立を考え、食事作りに参加してもらっています。彩りにもこだわり、味だけでなく目で見て楽しめるように工夫しています。コロナ禍ではありますが、穏やかな食事の時間を楽めるよう取り組んでおります。	今年度より食材宅配業者の栄養士による献立表を基に食事作りを実施し、豊富なメニュー、バランスの良い栄養の提供となっている。また、土日はホーム内での食材利用で、利用者は感染防止策を徹底したうえで、食に関する活動への参加を継続しており、畑での野菜の栽培、収穫、調理、また、希望の誕生日メニュー、外食の危険による代替えの宅配サービスの活用などの食の工夫は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取はチェック表にて確認できるようになっており、ご利用者様に応じて調節をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施しています。出来る方にはご自身で行ってもらい、職員が個々に合わせて見守り、調整、確認しながら清潔の保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレで排泄を行う大切さを職員全体で共有することから始まり、チェック表を確認しながらご利用者様それぞれの排泄パターンを知り、適切な時間を把握しながら声がけをしています。	トイレでの排泄を重視しているため、本人に合わせた支援や介助方法で、現在は全員がトイレでの排泄が可能となっている。また、自尊心や羞恥心に配慮するとともに、トイレ内の衛生面にも気を配り、気持ち良い場所となるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の体操や散歩、水分確保や腸の活動に効果のあるオリーブオイルを朝食に取り入れながら便秘予防を行っています。また、個々の対応では医師との相談により予防、対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	午前、午後など時間帯を決めず、「汗をかいたから」等ご利用者様の気持ちに添い、希望に応じて入浴を楽しんでいただいています。入浴後の衣類もご利用者様と一緒に選び、楽しみのひとつに繋がっています。	入浴の時間、順番、曜日等は、本人の希望に沿うように努めており、入浴を洗る方には無理強いすることなく、本人の気持ちを待つ姿勢で、気持ちの良い、安心な入浴となるようにしている。また、入浴後の清掃は徹底して行き、清潔で快適な入浴となるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の希望や体調等必要な休息をとることのできる環境です。 また、ご本人のペースや生活リズムを大切に、横になる時間や途中で起きてこられた時にも温かいお茶を飲んでゆっくりと休めるように取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎日、バイタルチェックを行いながら全身状態の観察を行い、体調の変化に気づけるようにしています。 服薬を行う際は薬を飲みこむまで見守りを行い、ダブルチェック体制で服薬の管理を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や日常の散歩、家事のお手伝いなど、ご利用者様それぞれに得意な部分を見つけ、「やってよかった」「またやりたい」とやりがいにつながるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	散歩やドライブ、買い物、ひなたぼっこなど、外に出かける機会は日常的にあり、ご利用者様も外に出かけることは日常生活の一部となっています。 昔から通っている美容院に出かける方や、畑の野菜を毎日収穫に外へ出たりもしています。	コロナ禍で日常的な外出の制約が多くなっているなかで、職員は知恵を出し合い、少人数で出かける場所や、外食を控えての宅配サービス、パン屋の出張販売の活用など、形を変えた新たな取り組みの実施がある。 なお、ホーム周辺の散歩は今まで通り力を入れており、利用者は運動とともに気分転換となっている。	集団や少人数での外出制限が多いこのような時だからこそ、家族に代わって本人の思いや希望に沿った個別支援に力を入れて、さらに満足度を高めてほしい。 グループホーム本来の個別支援の真価が問われるときと理解したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。	「自分でお金を所持する」「使いたい」という気持ちや欲求があることを職員は理解し、日々のお買い物ではお支払いはご利用者様自身にお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。	はがきやお手紙が届いた際はご本人様と一緒に読み上げ、楽しんでもらえるようにしています。 ご利用者様にも返信の手紙を職員と一緒に考え、やり取りができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に職員皆で整理整頓、清掃、四季に合わせた空間作りを行っています。特に、季節に合わせた花などは積極的に取り入れ、明るい雰囲気になるように工夫しています。	外出が制約されるなかで、ホール内で季節や行事を感じられるよう、利用者が協力して作品を作って展示しているので、居ながらにしてその出来栄で季節を感じるができる。特に、共有空間の感染防止対策には徹底して取り組んでおり、消毒、換気、酸性水加湿器、飛沫感染防止ガードの設置などで、利用者の安全、安心な生活を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間ではソファに座りご利用者様同士でゆっくり過ごす時間や、日向ぼっこをしながらお茶を飲む時間、台所で食事メニューを職員と考えたりと、思い思いに過ごせる環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室空間はご利用者様の写真や思い出の品を飾り、その人らしい環境作りをしています。ベッドの位置もご利用者様の生活スタイルに合わせ、適時変更しています。	押し入れ等がないため、本人が今まで使っていたタンスや物品の持ち込みを勧めており、また、仏壇やこたつなどの持ち込みもある。居室はプライベート空間として、職員は常に本人の同意を得ての対応を心掛け、居心地の良い空間を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路やトイレ内部には手すりが設置され、ご利用者様に合わせて使用することが出来ます。歩行器の使用も「できること」と「危険なこと」をご本人の残存能力を活かしながら適切に使用しています。		